

文学研究科 専攻別論文評価基準

【日本文学専攻】

〈修士学位論文の評価基準〉

- ① 400字詰め原稿用紙200枚以上に相当する分量を有している。
- ② 先行研究の検討と問題設定が適切になされている。
- ③ 的確な分析・解釈に基づいて、設定した問題が適切に解明されている。
- ④ テーマと研究方法に従って、データや資料が適切に収集・処理されている。
- ⑤ 論理的に一貫した構成と内容を有し、論旨の展開・文章表現が的確である。

〈博士学位論文の評価基準〉

- ① 「課程博士」の場合は、400字詰め原稿用紙400枚以上、「論文博士」の場合は、800枚以上に相当する分量を有している。
 - ② レフリー制度のある学術誌掲載論文を「課程博士」は1本以上、「論文博士」は2本以上、成果として含んでいる。
 - ③ 先行研究の検討と問題設定が適切になされている。
 - ④ 的確な分析・解釈に基づいて、設定した問題が適切に解明されている。
 - ⑤ テーマと研究方法に従って、データや資料が適切に収集・処理されている。
 - ⑥ 論理的に一貫した構成と内容を有し、論旨の展開・文章表現が的確である。
 - ⑦ 既存の研究に新たな知見を付け加える、独創的な成果を含んでいる。
- * 口頭試問は公開を原則とする。

【中国学専攻】

〈修士学位論文の評価基準〉

- (1) 所定の単位を修得し、修了要件を満たすこと。
- (2) 修士論文が以下の基準を満たすこと。
 - ・研究テーマおよび研究内容が適切であること。
 - ・論文の意図・論旨・構成が明確であること。
 - ・文章の完成度が十分であること。
 - ・研究分野に関して、十分な知識を有していること。

〈博士学位論文の評価基準〉

- (1) 所定の単位を修得し、修了要件を満たすこと。
- (2) 博士論文が以下の基準を満たすこと。
 - ・量的に12万字（2万字相当論文6本）を越えていること。
 - ・収録既発表論文のうち一本は、外部の学会誌（レフリー付きが望ましい）に発表したものであること。
 - ・研究目的・研究対象が明瞭であること。
 - ・研究方法・研究内容に独創性があること。
 - ・当該分野の研究史における位置づけが明瞭であり、当該分野の研究の発展に十分貢献できること。
 - ・論文が体系的に構成され、論旨に一貫性があり、論旨が明瞭であること。
 - ・文章の表現力・完成度が十分であること。

文学研究科 専攻別論文評価基準

(3) 高度な専門業務に従事するために必要な能力や知識を身につけていること。

○博士後期課程（論文博士）

(1) 大学卒業後5年以上の研究歴を有すること。

(2) 課程博士の第2項・第3項に準ずるが、量的に24万字以上あることが望ましい。

【英文学専攻】

〈修士学位論文の評価基準〉

1. 先行研究の整理と問題設定が適切になされているか。
2. 章立てを含めた論述の構成が適切であるか。
3. 研究方法の選択・実行が適切になされているか。
4. 引用や註なども含め、論述が的確で、かつ分量的にも適切であるか。
5. 設定した問題の考察・解明は的確・適切になされているか。
6. 修士論文として英文が十分に適切なものになっているか。

以上6つの観点より審査を行い、以下4段階で評価する。

- A：優れた修士論文である
- B：おおむね良好な修士論文である
- C：いくつかの問題はあるが、修士論文として設定しうる
- D：修士論文としての水準に達していない

（口述試験実施要領）

1. 提出された修士論文の内容についての質疑応答。
2. 論文作成にあたって、どのような研究を行ったのかに関する質疑応答。
3. 研究成果のさらなる発展可能性についての質疑応答。

以上3つの観点より試験を行い、以下4段階で評価する。

- A：優れた研究が行われ、独力でのさらなる研究の発展が期待できる
- B：おおむね良好な研究が行われたと認められる
- C：不十分な点があるが、一定程度の研究が行われたと認められる
- D：適切な研究が行われたとはいいがたい

論文審査と口述試験のいずれか、または両方がD判定であれば不合格とする

【書道学専攻】

〈修士学位論文の評価基準〉

修士論文と修了制作の両方を提出しなければならない。

修士論文

1. 400字詰め原稿用紙100枚以上に相当する分量を有している。
2. 先行研究の検討と問題設定が適切になされている。
3. テーマと研究方法に対し、書跡のデータや資料等が適切に収集、処理されている。
4. 設定した問題が、原本および文献資料等によって、的確な分析と考察がなされ、解明されている。
5. 論理的に一貫した構成と説得性のある内容を有し、論の展開および文章表現が的確である。

文学研究科 専攻別論文評価基準

修了制作

1. 臨模 1 件と創作 1 件または修復 1 件の合計 2 件の作品を制作している。
2. 臨模、創作・修復ともに未発表の作品を制作している。
3. 臨模は古典（書跡、刻印等）を忠実にあるいは特徴をとらえ、制作または復元模写している。
4. 創作は独自の創意工夫に富む作品を制作している。
5. 創作は大作（縦×横 16 平方尺以上を 2 幅以上）を制作している。
6. 創作は原則として大作（縦×横 16 平方尺以上、篆刻作品においては 2 寸四方以上の大印を含む複数顆）を制作している。

〈博士学位論文の評価基準〉

1. 「課程博士」の場合は、400 字詰め原稿用紙 300 枚以上、「論文博士」の場合は、600 枚以上に相当する分量を有している。
2. レフリー制度のある学術誌掲載論文が、「課程博士」は 1 本以上、「論文博士」は 2 本以上、成果の中に含まれている。
3. 先行研究の検討と問題設定が適切になされている。
4. 設定した問題が、原本および文献資料等によって、的確な分析と考察がなされ、解明されている。
5. テーマと研究方法に対し、書跡のデータや資料等が適切に収集、処理されている。
6. 論理的に一貫した構成と説得性のある内容を有し、論の展開および文章表現が的確である。
7. 既存の研究に新たな知見を付け加える、独創的な成果を含んでいる。

【教育学専攻】

〈修士学位論文の評価基準〉

- ① 先行研究の検討とテーマ設定が適切になされていること
- ② 文献・資料やデータが適切に収集・処理されていること
- ③ 論理的に一貫した構成を有し、文章の表現や表記が的確であること
- ④ 全体を通じ、設定した問題が適切に解明されていること